

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助 Social Work		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程必修科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程必修科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小竹利夫	講義棟2階	月・火・水・木の8時～18時		授業中に指示します
授業の概要				
相談援助の概要及び方法を理解し、事例分析を通して具体的展開を理解する。				
授業の目標				
①相談援助の概要を理解し、解決の方法について学ぶ態度を修得することができるようにする。 ②相談援助の方法と技法について学び、実行できるようにする。 ③事例分析を通して相談援助を具体的に展開できるようにする。				
授業の方法				
相談援助が必要な様々な事例を紹介し、その問題の背景を理解するとともに解決方法を探り、毎回小レポートにまとめる。				
学習の成果（学習成果）				
①子どもや保護者や保育者の悩みを聴く態度を身につけることができる。 ②子どもや保護者や保育者の悩みの解決の仕方を身につけることができる。 ③実際に保護者や保育者からの相談に対する援助の方法を考え、実行する態度を身に付けることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス。(授業の内容・進め方・評価の方法)(心もちと共感)			
第2回目	相談援助の概要と意義(その子らしさを受け止める)。			
第3回目	子ども理解と援助(保育の知)。			
第4回目	行為の意味を探る(障害児保育とは)。			
第5回目	子どもを見る視点(子どもの世界をどうみるか?)。			
第6回目	言葉の発達の道筋			

第7回目	言葉の発達の条件。	
第8回目	保護者に対する相談援助（コミュニケーション力）。	
第9回目	保護者に対する相談援助（けんかの対応）。	
第10回目	相談援助の技術（カウンセリングマインド）。	
第11回目	虐待を受けた子に対する社会的支援。（児童心理治療施設）①。	
第12回目	虐待を受けた子に対する社会的支援。（児童心理治療施設）②。	
第13回目	虐待をする親に対する理解と支援	
第14回目	特別な配慮を必要とする児童及びその家庭に対する支援。	
第15回目	フィールドワーク等による事例分析。（保育所）	
事前・事後学習	文献やインターネットを活用して、事前・事後学習に自主的に取り組む。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業を集中して聞き、質問に対して積極的に答える。必要なことはきちんとノートに取る。
レポート	70%	授業の中でレポートを書く。授業の内容を理解した上で、自分の考えを展開することが求められる。1回5点満点で計14回。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
参考資料：「実習エピソードでつづる 子どもや障害がある人の心の世界」（小竹利夫） その他、適宜資料を配布。		
履修上の留意点・ルール		
私語禁止。飲食禁止。		